

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第3部課程 116期）

共和町 環境整備課 野澤 晃則

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

自治大学校第3部課程第116期を卒業してから1週間余りが経過し、余韻に浸りつつ「自治大ロス」の真っ最中ではありますが、立川市という豊かな環境で、私が経験した自治大での貴重な研修について振り返りたいと思います。

2 入校するまで

管理職となってまだ日が浅い中、異動したばかりで日々の仕事に追われ、目の前しか見えていない状況でこの自治大学校第3部課程研修のお話をいただき、正直なところ「そんなに長期間職場を離れては仲間に迷惑がかかる」「研修で何か変わるだろうか」と考えていました。ですが実際に研修へ参加した今の感想は「百聞は一見にしかず」で、経験に勝るものはないというのが実感です。RPGゲームではないですが、経験値を積んでどんどんレベルアップするという感覚を強く感じています。

3 研修のはじまり

第3部課程第116期は、令和8年7月6日から31日までの期間、全国各地から総勢83名が研修に参加しました。最初は皆さん少し緊張した面持ちで、寮生活でのフロア役員決め（男気じゃんけん）や名刺交換を行いました。私は4階フロアでしたが、このフロアは団結力が強く、個性豊かな逸材がそろっており、自治会長、フロア役員をはじ

め、皆さんの強い行動力と飲酒力には大変驚かされました。談話室には、各地の特産品（特にお酒）が祭壇のように並べられ、はたしてこの量を全て消費できるのか、消費して体は大丈夫なのかと、不安になるほどでした。

肝心の講義については、管理職としてこれから必要となる講義が網羅されており、その道では名の知れている講師陣による最新の講義内容となっており、管理職としてのマネジメントとリーダーシップ、コンプライアンス、ハラスメント、多文化共生社会、地域おこし協力隊、社会保障と財政、教育政策、環境政策、防災政策、自治体DX、AIといった多彩な分野から構成されており、広く知見を得ることができました。特に「トップマネジメントとリーダーシップ」において、管理職員と若手職員とでは受けてきた教育が違うため、考え方が違うこと、また、現代のリーダーシップは「人の可能性を信じて、成長・成功を助けること」ということが今でも心に残っており、これからの仕事に活かしていきたいと思います。

演習については、事例演習（持寄型）と特定政策課題演習の2つがあり、レポートの作成やグループ討議、教官を前にプレゼンテーションなどを行いました。それぞれのまちでの課題や事例をもとに討論を進めましたが、各自治体での現状を知ることができ、違う角度からの意見など解決につながるヒントを多く学ぶことができました。特に、プレゼンについては皆さん工夫を凝らし、レポートとは別にわかりやすいパワーポイントを作成しての説明や、なかには動

画を作成してまちを紹介するなど、私では思いつかないプレゼンにとっても驚かされました。



【談話室：祭壇のような特産品】

4 研修を振り返って

研修を終えて、講義や演習で得たものも大きかったですが、やはり一番の成果は、全国の仲間との楽しい思い出、そして「絆」です。入寮オリエンテーションから始まり、次のボイストレーニングでは、鼻腔の共鳴を練習しながら自治大校歌を憶えるなかで、これから一体何が始まるんだろうと思い、寮に戻れば全国の特産品を飲んで食べて楽しく語り合う時間は、私のかけがえのない宝物となっています。入寮パーティー、卒業パーティー、休日には「大人の遠足」など様々なイベントが開催され、日程を合わせたような「立川まつり花火大会」も自治大グラウンドからゆっくり観ることができました。寮フロアでは、送られてきた特産品によるウナギパーティーの開催など、本当に充実した日々を送ることができました。

5 さいごに

研修へ参加しても何も変わらない、参加するのが面倒だと思っている方、ぜひ自治大研修への参加をお勧めします。自身が成長することができる貴重な機会であると同時に、楽しい経験ができるチャンスとなります。

最後に、この研修に参加できたのは、職場の仲間をはじめ家族の協力があったからこそと心から感謝しており、この貴重な経験をさせていただいた自治大職員の皆様、共に過ごした同期の皆様、そして麗沢寮4階フロアの皆様に心より感謝を申し上げ、また再会できる日を楽しみにしております。



【麗沢寮4階メンバー無事卒業】